●ビジュアルナビ 解説

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| アオウミガメ ➞巻末  インド洋，大西洋，太平洋にかけての水深の浅い沿岸諸島に生息し，日本では小笠原諸島や南西諸島をおもな産卵場とする。名前の由来は体脂肪が緑色であることによる。雑食性でおもに海草や藻類を食べる。ワシントン条約附属書Ⅰに記載されているため，国際取引は前面禁止。 | アカメガシワ　➞p.135  本州，四国，九州，東南アジアの山野に自生し，空き地などによく生える落葉広葉樹。雌雄異株で，樹高は5～10mに達する。葉の裏に黄色の腺点があってアリが集まることもある。初夏，白色の花を穂状につける。果実は秋に熟し，蒴果で軟針がある。 | アナウサギ　➞p.145  アルジェリア北部，スペイン，ポルトガル，モロッコ北部に分布。体長35～50cm。体重1.5～3kg。背面の体毛は先端が黒や赤褐色の灰色，腹面の体毛は明灰色。耳の長さは6.5～8.5cm。地中に複雑な巣穴を掘って生活する。植物食性で草，樹皮，根などを好んで食べる。 |
| アオカビ　➞p.9  不完全菌の一つであり，アオカビ属に所属する。最も普通に見られるカビの一つである。胞子の色が青みを帯びた水色であることから，その名前がついた。ほとんどのアオカビは，非病原性であり，ヒトに害は及ぼさない。また，ペニシリンの発見にも役立った。 | アキアカネ　➞p.8  日本では普通に見られる。俗に赤とんぼとよばれる。平地から山地にかけて，水田，沼，池，湿地などに生育する。底質が泥で，汚れた水質の環境に生育することが多い。平地で孵化した未熟な成虫は夏に涼しい山地へ移動し，成熟し，秋になると平地に戻る。 | アフリカゾウ　➞p.8  サハラ砂漠以南のアフリカに生息。陸上で最大のほ乳類。体長6ｍ，背中までの高さ3ｍ，体重5トンにもなる。雌雄ともに長い牙がある。サバンナや森林に生息し，植物食性。メスは子と3～10頭の群れを形成，オスは生後12年ほどで群れを離れ，単独または群れで生活する。象牙採取の密漁で激減するも，現在は微増中。 |
| アカゲラ　➞p.12，153  キツツキの仲間。本州，四国には亜種のアカゲラが周年生息し，北海道には亜種のエゾアカゲラが生息する。落葉広葉樹林や針葉樹林などに，単独もしくはペアで生活する。雑食性で，おもに昆虫，クモ，多足類を食べるが，果実，種子なども食べる。 | アコウ　➞p.147  紀伊半島から沖縄などの温暖な地方に自生する。樹脂はきめ細かく，幹は分岐が多い。枝や幹から多数の気根を垂らし，岩の露頭などに張りつく。年に数回，新芽を出す前に短期間落葉する半常緑広葉樹。絞め殺しの木とよばれることもある。クワ科の植物で，イチジクに似た形の小型の花を，枝や幹に直接つける。 | アマガエル(二ホンアマガエル) ➞p.8，12  日本では，北海道，本州，四国，九州などに分布している。指先に吸盤があるなど樹上での生活に適応していて，水辺の植物の上や森林などに生息する。動物食性で，小さな昆虫やクモ類を捕食する。体色は背中側が黄緑色だが，黒っぽいまだら模様の灰褐色にも変えることができ，保護色としてよく知られる。 |
| アカネズミ　➞p.153  日本固有種であり，北海道から九州まで分布している。低地から高山帯までの森林や田畑のあぜ，川原のやぶなどに生息する。おもに植物の種子や根茎などを食べるが，昆虫を捕食することもある。クルミを食べるときは，二つ穴の特徴ある食痕が残る。 | アザミ\*　➞p.153  日本では100種以上あるとされるが，現在も新種が見つかることがある多年生植物。トゲが多く，さわるととても痛いものが多い。名前の由来は，あざむ(傷つける，驚きあきれる)がもとで，花を折ろうとすると，トゲに刺されて驚くからという説がある。 | アマミノクロウサギ　➞p.147，巻末  日本固有種であり，奄美大島と徳之島にのみ生息している。ウサギ科内でも原始的形態を残した種と考えられている。背面の体毛は黒や暗褐色，腹面は灰褐色である。山地や海岸の斜面にある照葉樹林や二次林に生息する。食性は植物食性で，捕食者にはハブ，外来種ではフイリマングース，野犬も挙げられる。 |
| アカマツ　➞p.131，135，136  本州，四国，九州，朝鮮半島，中国東北などに分布。温暖地に多いが，寒冷な気候にも耐えることができる常緑針葉樹。明るい場所を好む陽樹であり，里山においては日当たりがよく，栄養の乏しい尾根に植えられることが多かった。マツタケとは相利共生関係。 | アジアゾウ　➞p.145  おもに森林や草原に生息している。雌と幼獣からなる群れを形成する。植物食性で，おもに草を食べるが，木の枝，葉，樹皮，根，種子，果実なども食べる。その量は1日に約136kgにもなる。開発による生息地の破壊などにより，生息数は減少している。 | アメーバ\*　➞p.19，20  単細胞で鞭毛や繊毛をもたず，仮足で運動する原生動物の総称である。大型の無殻アメーバは，一般に静かな淡水に多く，水中の落ち葉や水草の上などをはい回って生活するものが多い。水田などでもよくみられる。繊毛虫などの他の微生物を食べて生活する。 |
| アメリカグマ　➞p.144  アメリカ合衆国，カナダ，メキシコに分布する。体毛の色はおもに黒，褐色の個体もいるなど地域や個体変異が大きい。胸部に白色斑が入る個体もいる。おもに森林に生息する。食性は植物食性傾向の強い雑食性で，果実，種子，草，昆虫，魚類，動物の死骸などを食べる。 | イタチ\*　➞p.153  ユーラシア，アフリカ，南北アメリカ大陸の亜熱帯から寒帯まで広く分布し，おもに水辺に生息する。小柄な体格ながら，非常に凶暴な動物食性の動物であり，小型のネズミや鳥類の他に，自分よりも大きなニワトリやウサギなども単独で捕食する。天敵はワシ・タカ・フクロウ・キツネなどである。 | イワナ　➞p.153  一生を淡水ですごす魚で，河川の最上流の冷水域などに生息する場合が多い。オショロコマなどのイワナの仲間は，多くの種類が食用とされ，渓流釣りの対象魚としても人気があり，スポーツフィッシングの対象魚としての人気もある。動物食性で，動物性プランクトン，水棲昆虫などを食べる。 |
| アライグマ　➞p.144，163  前足を水中に突っ込んで獲物を探る姿が手を洗っているように見えることが名前の由来である。雑食性で，小動物などを捕獲して食べる。日本には外来種として生息している。移入後の繁殖により，農作物への被害や生態系への影響などが問題となっている。 | イタドリ　➞p.131，134  北海道西部以南の日本，台湾，朝鮮半島，中国に分布する東アジア原産の多年生植物。世界の侵略的外来種ワースト100 指定種の一つである。秋に熟す種子には3枚の翼があり，風によって散布される。路傍や荒地までさまざまな場所に生育でき，かく乱を受けた場所によく出現する先駆植物である。 | ウシガエル　➞p.163  河川，池，沼，湖，湿地などに生息する。繁殖期は5 ～ 9 月上旬。鳴き声が「ヴォー，ヴォー」というウシの鳴き声に似ていて，名前の由来ともなっている。食用として養殖された個体が逃げ出し，日本各地のみならず世界中に定着してしまっている。 |
| アラカシ　➞p.149  本州東北以南，四国，九州，台湾，中国に分布する常緑広葉樹。人里近くにも多く見られる。葉は楕円形で硬く，中央から先に荒い鋸歯がある。葉の裏面は粉を吹いたように白い。樹皮は黒っぽい灰色。開花期は4 ～ 5 月で雌雄異花。果実はどんぐりの一つ。 | イチョウ　➞p.9  中国原産の落葉樹。裸子植物イチョウ綱のなかで唯一の現存種。雌雄異株で，実は雌株のみになる。針葉樹とされる場合もあるが，厳密には広葉樹にも針葉樹にも属さない。長寿で，成長すると巨木になる。日本の各地に幹周が10m を超える巨木も存在している。 | ウチダザリガニ　➞p.163  ニホンザリガニやアメリカザリガニと比較してやや大型である。1926 年に食用とするべく移入され，養殖のため北海道の湖沼に放流された。日本には本来分布していない環境省指定特定外来生物である。 |
| アルゼンチンアリ　➞p.163  ハチ目アリ科カタアリ亜科アルゼンチンアリ属に分類されるアリの一種。駆除や根絶が容易ではなく，果樹を食害し，人間の住居や他生物の巣に侵入して生態系を荒らすなど，厄介なことでも世界的に有名である。 | イトミミズ\*　➞p.159  環形動物門貧毛綱イトミミズ科に属するミミズの一種。おもに下水管の中や溝などに集団で生息している。生命力が強く，基本的にどこでも生息でき，世界各地に分布している。乾燥にも強く，水がなくなると塊になって身を守るので，水の少ない場所でも生きていける。 | ウニ\*　➞p.154  ウニ綱に属する棘皮動物の総称。からだは五放射相称で半球形の硬い殻の上に針のような棘が生えた動物。深海の海底から磯に至る世界中の海に生息し，岩に張り付いている場合が多い。海藻や生物体の破片などを食べる。食用とされるのはおもに生殖腺である。 |
| アレチウリ　➞p.163  ウリ科の大型のツル植物で1年生植物。北米原産で日本では本州以南で帰化植物として知られ，特定外来生物に指定されている。白い花は雄花(球状にならない)と雌花(球状)があり，開花期は8月から9月。花の後には白いトゲに覆われた実がなる。 | イヌワラビ　➞p.9  日本，中国北部，朝鮮半島，台湾に分布する。低地～山地，里山の道端，棚田土手，林縁などにみられる中型の夏緑性シダ植物の一種。落葉性の草本植物であり，葉は根茎から輪生する。葉は明るい緑色，茎は暗い赤茶である。胞子を備えた胞子のうが羽片の下面にある。 | うぱる |
| イガイ\*　➞p.155  浅海や岩礁に生息する二枚貝。岩などに足糸で体を固定し,海水をろ過して微生物などを食べる。世界の侵略的外来種ワースト100であるムラサキイガイは繁殖力が強く，日本にも外来生物として在来生物のイガイとともに生息している。ヨーロッパイガイやムラサキイガイは美味で，ムール貝とよばれる。 | イボニシ　➞p.155  極東アジアから東南アジアの一部まで分布し，潮間帯の岩礁に見られる動物食性の巻貝である。穿孔腺という酸を分泌する器官をもち，おもに固着性の貝類やフジツボの殻に穿孔腺からの酸と歯舌の運動で穴を開け,その肉を捕食する。外套腔内の鰓下腺からの分泌液は，貝紫として染色に利用されてきた。 | メキシコサンショウウオ  トラフサンショウウオ属に分類される両生類。流通名はウーパールーパー。通常は幼生の形態のまま性成熟し，幼形成熟した個体をアホロートルという。メキシコ中部の湖に生息し，体長は10～25cm，夜行性で動物食性。体色は灰色，淡いピンクの個体は突然変異でメラニン色素が合成できないもの。 |